

第4回
男山地域まちづくり連携協定
年次報告会

平成29年10月23日

男山地域まちづくり連携協定の締結

地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住み続けたい男山
を目指し、京都府、八幡市、関西大学、UR都市機構が連携して取組んでいこう！



平成23年 9月 関西大学団地再編プロジェクト(文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業)開始

平成24年 4月 八幡市・京都府・関西大で戦略会議を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年 4月 UR都市機構が加わり連携協議会を開催 ⇒ 調査・検討・提案

平成25年10月 男山地域まちづくり連携協定の締結(無期限) ⇒ 調査・検討・提案・実践・検証 ⇒

平成28年 3月 文科省補助事業終了

平成26年11月 — 平成27年11月 — 平成28年11月 — 平成29年10月 第4回年次報告会

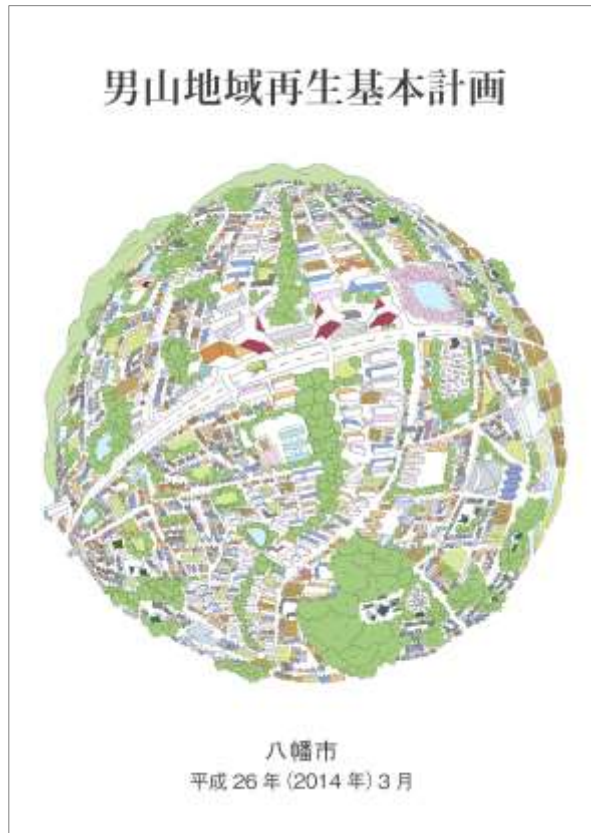
男山地域まちづくり連携協定の目的

- (1) 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立
- (2) 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

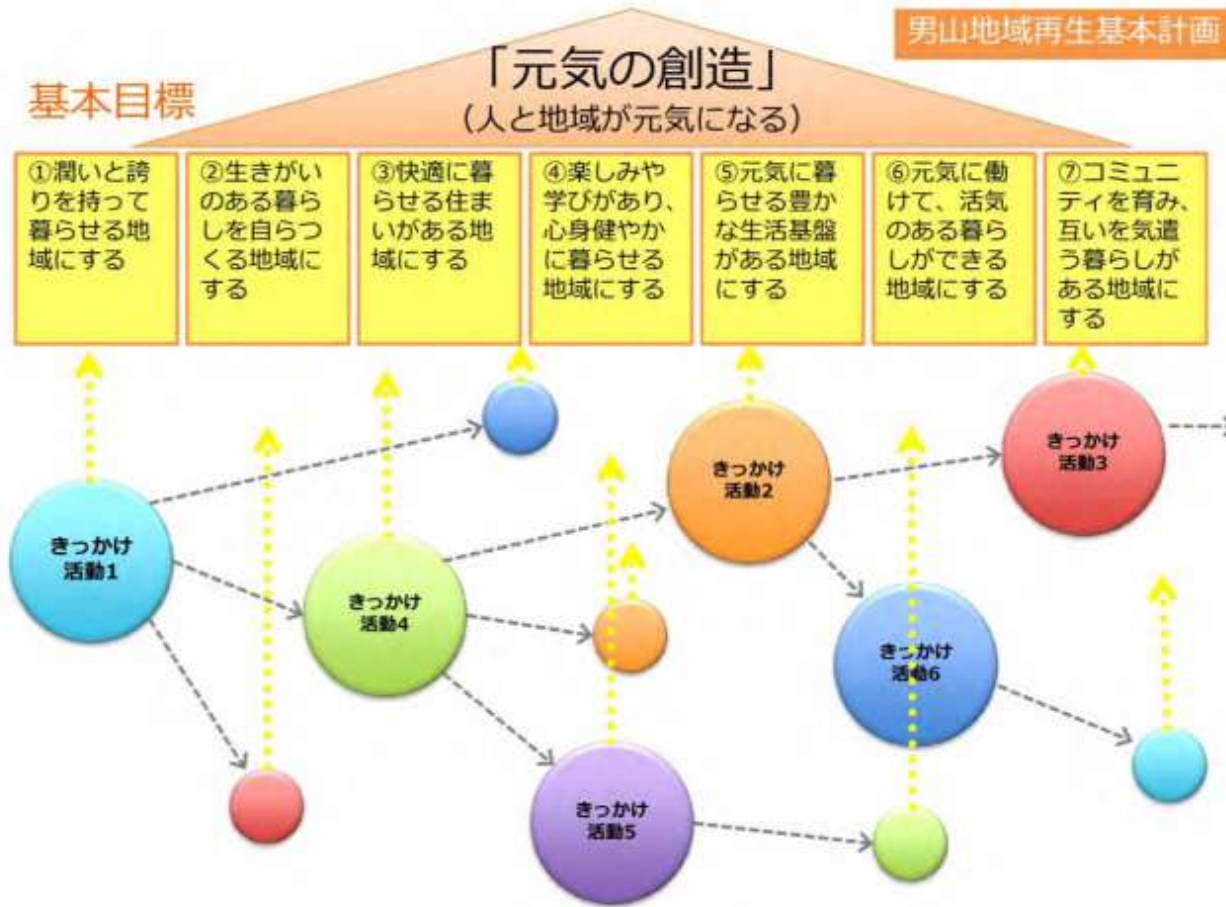
男山の将来目標

地域とともに元気な暮らしができる、
住みたい、住み続けたい男山



平成26年3月 男山地域再生基本計画の策定

「元気の創造」を生み出す7つの基本目標と「きっかけ活動」



現在、連携・協力事項により、具体的な取り組みである
様々な「きっかけ活動」が始まり展開している。

子育て支援の取組み

(1)次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくり

ダンチ de コソダテ in 男山 の概要



子育て世代に向けた住宅の供給

- ・リノベーション住宅の供給
- ・エントランス改修による団地環境整備
- ・若年層世帯を対象とする家賃負担の軽減



地域子育て支援施設

「おひさまテラス」の開設・運営

これら2つの事業を柱として、UR男山団地をきっかけとした、まち全体の子育て環境の再編を目指す。

ダンチ de コソダテ の取組み

子育て層となる若い世代へ訴求し得るリノベーション住宅を、関西大学設計プランを主軸として、UR男山団地に投入（H26年度より過去3回実施）＜H26～28年度供給実績12プラン、12戸＞

【写真】 関西大学設計リノベーション住戸の一例



H26年度「のびやかに暮らす」



H27年度「ひろく暮らす」



H28年度「ロビーラウンジのある住まい」



【写真】 URにおいても、全洋室化の1LDKなどの改良プランを供給



学生たちとの協業により、築40年の住宅を改修

ダンチ de コソダテ の取組み

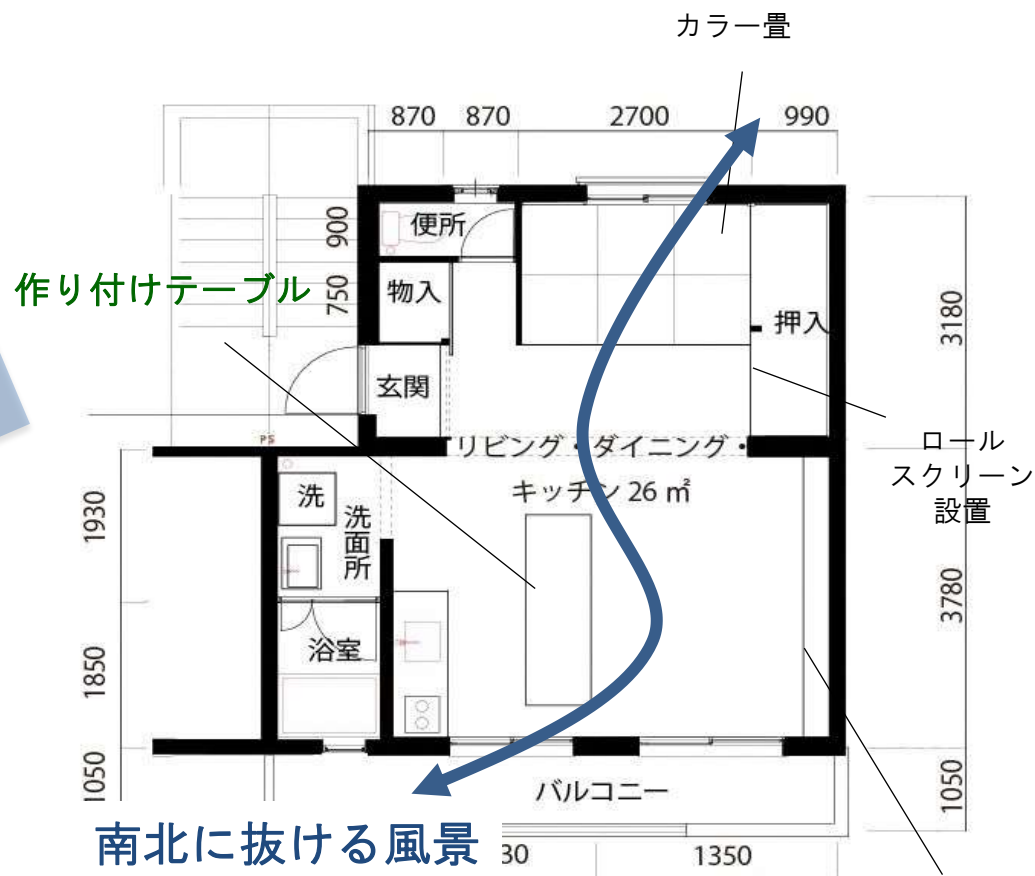
現在、来年1月の募集に向け、新たな関大リノベーション住戸を工事施工中

■H29年度プラン例「のびやかな風景と暮らす住まい」

Before<2DK>



After<ワンルーム>



【コンセプト】 この住戸は窓から南北に

抜けるのびやかな風景を楽しむことができる。
風景の中央に設けた大テーブルに生活を集約することで、常に窓から見える風景と共にある日常を提案。また、畳の空間も設けることでワンルームの中でも選択性のある暮らし方を目指した。

作り付け棚新設

ダンチ de コソダテ の取組み

エントランス改修による団地環境整備

住戸内だけでなく、子育て支援施設を中心としたエリアのエントランス改修も実施し、共用部の美観・機能向上を推進。



改修前のエントランス



エントランス改修実施後



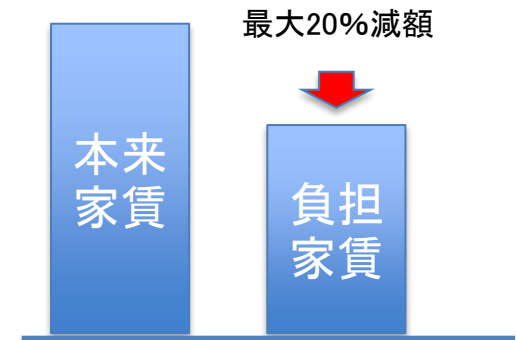
H28年度末までに20住棟において実施。

ダンチ de コソダテ の取組み

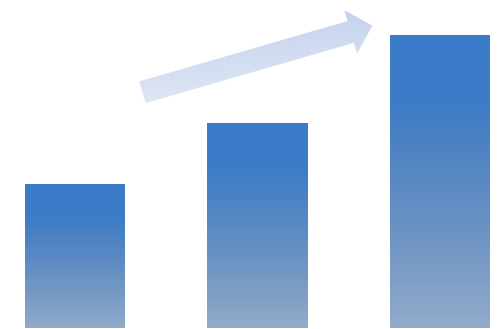
若年層世帯を対象とする家賃負担の軽減

子育て世帯や予備軍となる若年世帯を対象とする家賃負担支援メニューをUR男山団地に投入。

割引制度	対象世帯	家賃割引額
子育て割	子育て世帯(H28.9月より新婚や婚約中の方、妊婦の方にも対象拡大)	最大9年間 20%割引
そのママ割	子育て世帯	3年間 20%割引
U35割	35歳以下の世帯の方(H28.1より29歳⇒35歳に対象拡大)	3年間 20%割引
近居割ワイド	ご親族と八幡市内で近居される子育て世帯等(H28.2より割引幅5%⇒20%に拡大)	最大5年間 20%割引



<制度利用者件数の推移>



ダンチ de コソダテ の取組み

おひさまテラスの開設・運営

子育て世帯をサポートする地域子育て施設を平成26年度より開設。



昨年同期比59名増！

稼働日数 151日

延べ利用者 2,074名 (13.7名/日) ※昨年10月～今年9月まで(直近1年間)の実績

※開設以来、必ず誰かが訪れる。

<利用者ママの声>

居心地が良くて
実家に帰ったみたい。

子育てをするお母さんにとってここの存在は大きい。

ここに来なければ子供が保育園に行く年齢になるまで
ママ友たちもできなかったと思います。

利用者目線で運営されているため
安心でき、ほっとする時間が生まれた。

ほかのママたちにも
ここを知って欲しい。

ダンチ de コソダテ の取組み

おひさまテラスでの活動



たくさんの利用で毎日賑やか。



夏はプールで水遊び。



ハロウィン。手作りのかぼちゃでお出迎え



ママ友の輪が広がるピラティス教室。



ママと一緒にみんなでクッキング。



大型絵本の読み聞かせ。

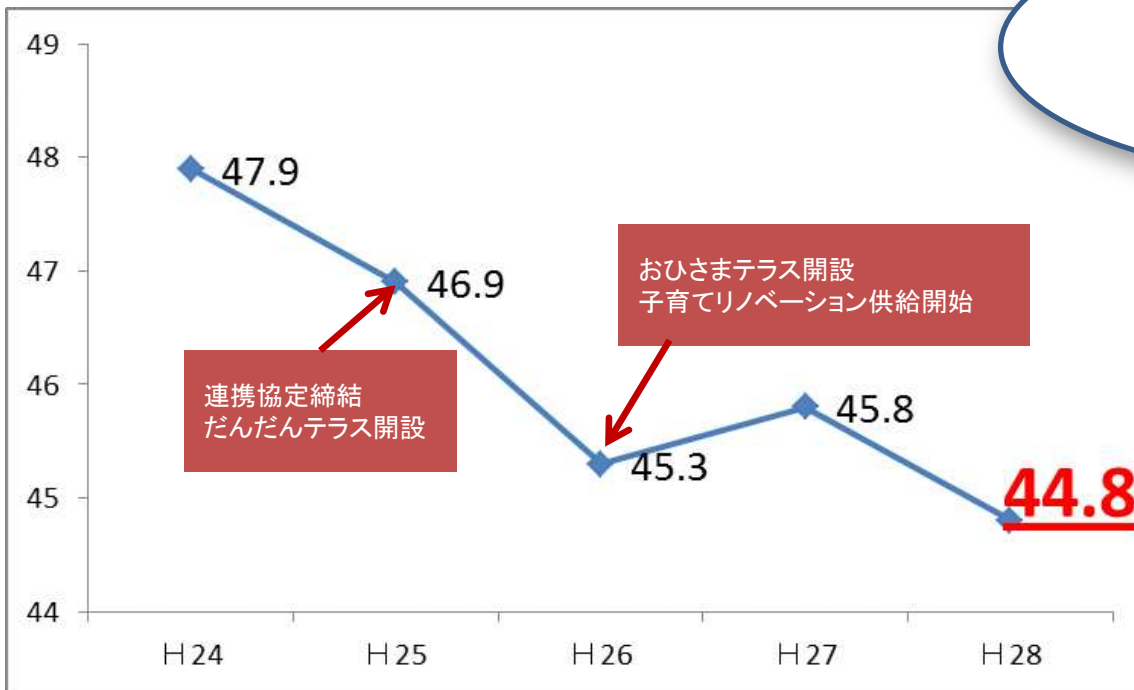
ダンチ de コソダテ の取組み

UR男山団地における入居者像について

ハード、ソフトの両面における取り組みの相乗効果により、

男山団地における**新規入居者の平均年齢は、右肩下がりを実現。**

UR男山団地世帯主平均年齢の推移(入居者過去5年)



男山団地H28実績

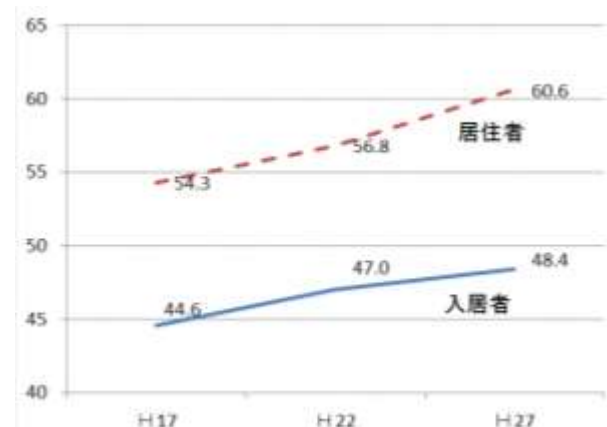
44.8才

(全国平均比▲4才)

【参考】

(注)全国平均は平27UR定期調査による

UR定期調査等による世帯主平均年齢の推移(全国)



地域包括ケアの確立

(2)多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で
住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立

八幡市地域包括ケア複合施設YMBT

地域密着型特別養護老人ホーム 定員 29名

高齢者あんしんサポートハウス 定員 20名

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

多目的ホール

UR男山団地内において

平成27年11月1日 地域包括ケア複合施設YMBT 開設

地域包括ケア複合施設YMBTの役割①

多様な高齢者のニーズに対応できる施設

- ・地域での生活を24時間体制で支援(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)
- ・低所得者向けの高齢者居住施設(あんしんサポートハウス)
- ・地域の重度要介護者が生活する施設(地域密着型特別養護老人ホーム)



折り紙教室



実習生との交流

地域包括ケア複合施設YMBTの役割②

元気高齢者の参画、地域へのサービス提供の場の確保

- ・多目的ホールの活用



毎朝のラジオ体操



出前講座、地域の催し等



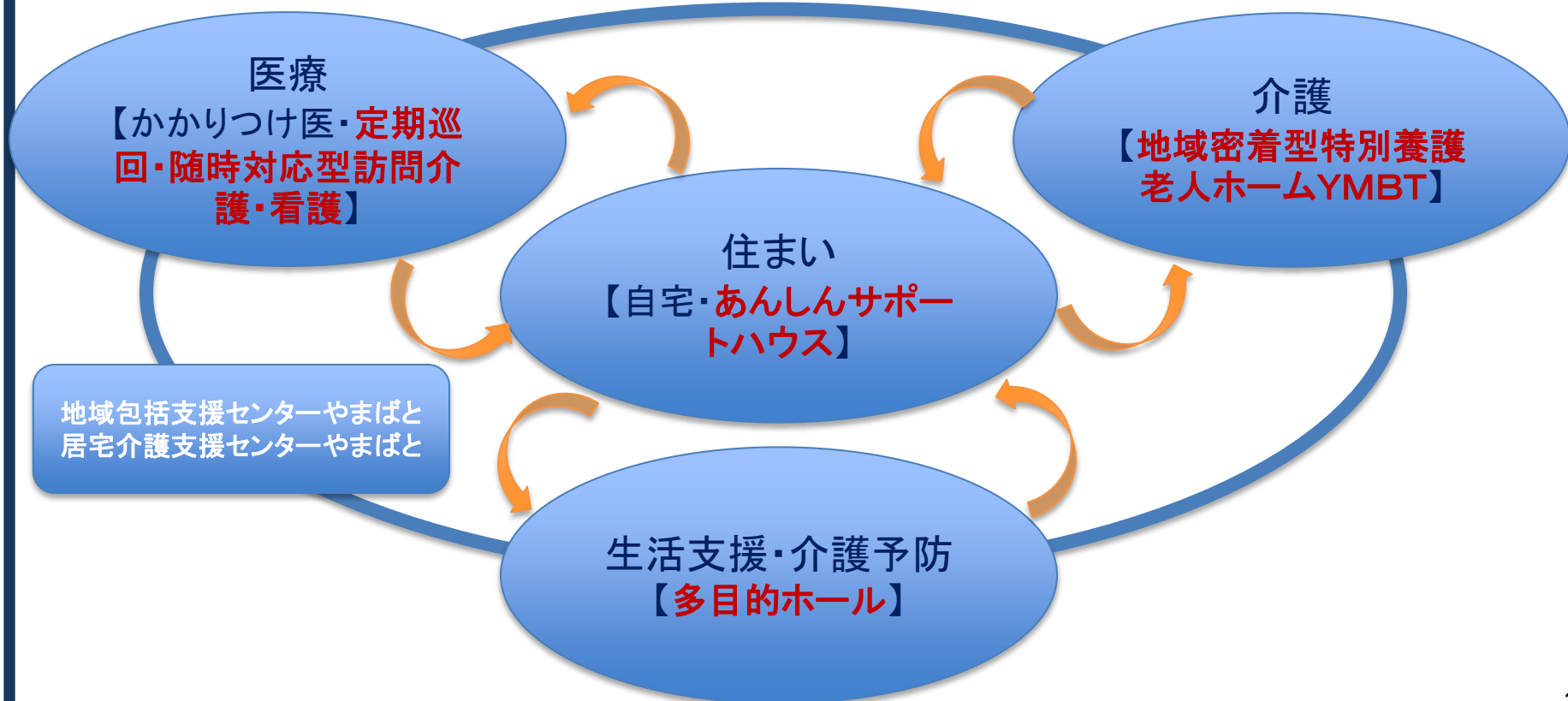
介護予防への取り組み

地域包括ケア複合施設YMBTの役割③

地域包括ケア推進拠点

- ・医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを包括的に提供

地域包括ケア



健康福祉分野を中心とした 男山地域再生プロジェクト

京都府 絆ネット構築支援事業(②6～)

□ 趣 旨

地域の高齢者、障害者、児童などの見守り・生活支援を進める上で、地域の様々な団体による連携した活動を横断的に調整・推進する必要があることから、地域における「絆ネット」を構築し、地域福祉の再構築を目指す。

□ 事業概要

各市町村の様々な見守り団体が、絆ネットを推進母体として連携することにより対応できるような、新たな見守り活動事業

【絆ネット】 個々の取組はありながら横断的なつながりが希薄な中、各団体が地域の課題について横断的に調整・推進するためのネットワーク

【絆ネットコーディネーター】 絆ネットにおける地域団体の活動を横断的に調整・推進する。住民活動の育成・支援・組織化を図り、ネットワーク参画団体・機関との連絡・調整を担う。

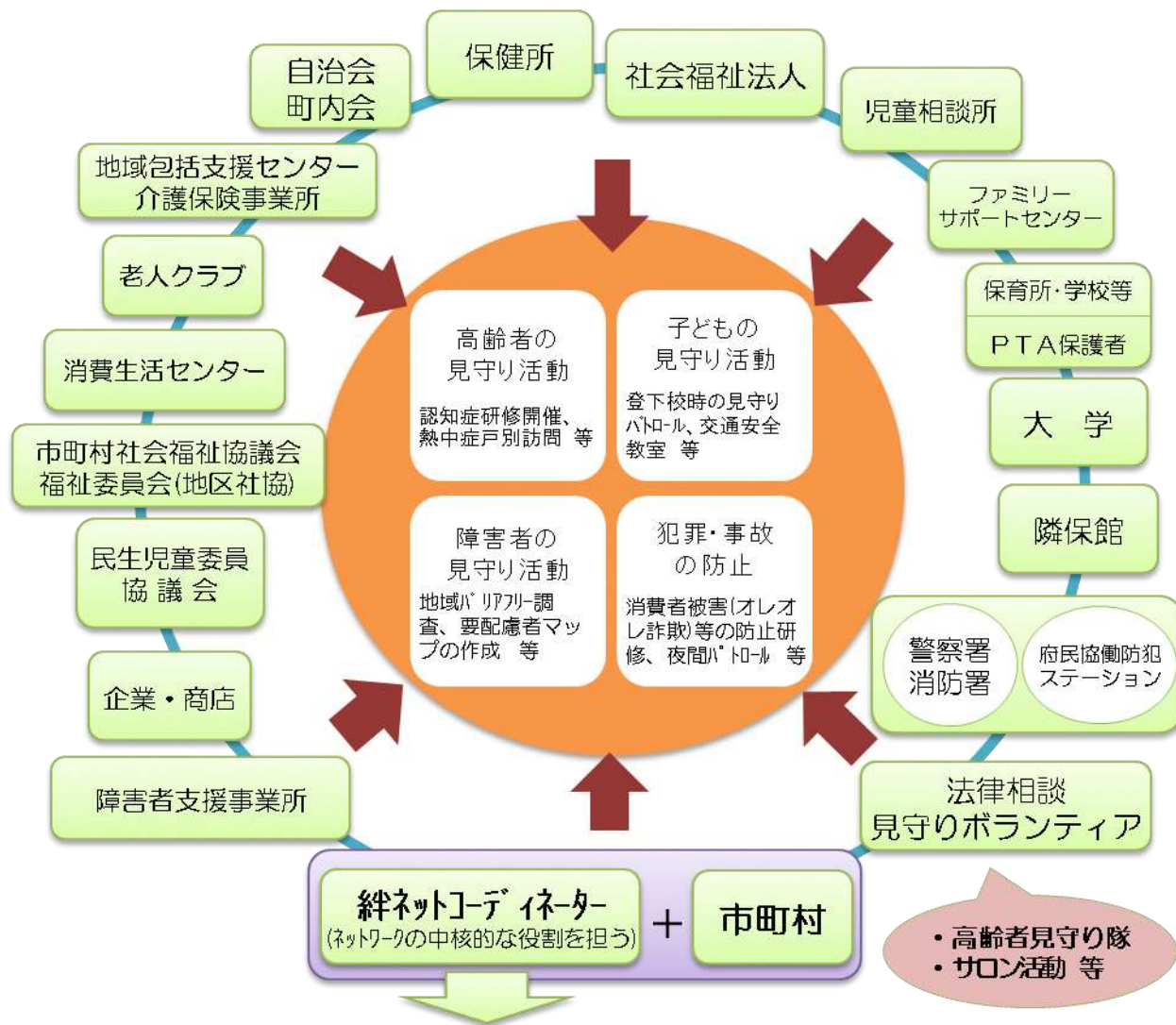
□ 実績 11市町 (②6～) 八幡市、久御山町、精華町、宮津市

(②7～) 京田辺市、笠置町、京丹後市、与謝野町

□ 府の支援事項 (②8～) 長岡京市、京丹波町 (②9～) 大山崎町

- ・事業経費の一部負担（立ち上げ支援）
- ・ネットワーク同士の情報交換の場を設置
- ・絆ネットコーディネーターの研修
- ・地域の座談会への参加 など

絆ネットワークのイメージ



個別課題に対応する「見守り支援チーム」※を編成

絆ネットワーク構築支援事業 28年度の実施状況

八幡市

実施主体:八幡市社会福祉協議会

小地域での取組の構築 → 男山地域全域のネットワークへ

○ 住民による見守り・支え合い活動の推進

男山B地区見守り隊

⇒ 手上げ方式の見守り活動・啓発活動

男山八望地区福祉座談会

⇒ ご近所福祉相談所の開設・ポスの設置

男山第4住宅福祉委員会

⇒ 認知症に関する研修・要配慮者想定避難訓練

→ 地域住民が参加する見守り・支え合い体制

自治会・福祉委員会・民生児童委員・老人会・
子ども会・交番連絡員 等



団地全体のネットワーク構築

○ 絆ネット地域懇談会の開催

地域活動者・地域包括・UR・警察・公共員・行政による情報 交換会の開催

⇒ 多方面から福祉課題の共有・連携方法を協議する。

○ 「男山あんしんネットワーク」の構築

男山地域の企業・事業所・商店等の参加

業務中不審なことがあれば社協へ連絡するシステム

社会福祉法

平成30年4月1日施行予定

1. 「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念を規定

- 地域福祉の推進の理念として、支援を必要とする住民(世帯)が抱える多様で複合的な地域生活課題について、住民や福祉関係者による把握、及び解決に向けた行政機関その他の関係機関との連携が積極的に行われることを目指す旨を明記。

2. この理念を実現するため、市町村が以下の包括的な支援体制づくりに努める旨を規定

- 地域住民が地域生活課題の把握、解決に資する活動に取り組む環境【1】
- 住民に身近な圏域において、地域生活課題について総合的に相談に応じ、関係機関と連絡調整等を行う体制(*)【2】
(*)例えば、地域住民ボランティア、地区社協、市区町村社協の地区担当、地域包括支援センター、相談支援事業所、地域子育て支援拠点、利用者支援事業、社会福祉法人、NPO法人等
- 主に市町村圏域において、生活困窮者自立相談支援機関等の関係機関が協働して、地域生活課題を解決するための体制【3】

3. 地域福祉計画の充実

- 市町村が地域福祉計画を策定するよう努めるものとするとともに、福祉の各分野における共通事項を定め、上位計画として位置づける。(都道府県が策定する地域福祉支援計画についても同様とする。)

地域力強化検討会最終とりまとめ(平成29年9月12日)の概要 ～地域共生社会の実現に向けた新たなステージへ～

総論(今後の方向性)

- ◆ 地域共生が文化として定着する挑戦
- ◆ 専門職による多職種連携、地域住民等との協働による地域連携
- ◆ 「点」としての取組から、有機的に連携・協働する「面」としての取組へ
- ◆ 「待ち」の姿勢から、「予防」の視点に基づく、早期発見、早期支援へ
- ◆ 「支え手」「受け手」が固定されない、多様な参加の場、働く場の創造

各論1 市町村における包括的な支援体制の構築

【1】他人事を「我が事」に変えていくような働きかけをする機能 第106条の3 第1項第1号

○3つの地域づくりの方向性の促進に向けた取組の例

- ・ 福祉、医療、教育、環境、農林水産、観光などの各分野における場や人材(地域の宝)とつながる。分野を超えた協働を進めるとともに、分野を超えた協働を進めていく役割を果たす人を地域の中から多く見つけていく。
- ・ 障害や認知症、社会的孤立等に関して学ぶことを通じ、地域や福祉を身近なものとして考える福祉教育の機会を提供する。
- ・ 地域から排除されがちな課題であっても、ソーシャルワーカーが専門的な対応を行う中で、徐々に地域住民と協働していくといった取組を積み重ねる。そうした取組を当事者のプライバシー等に配慮した上で広く知ってもらおう。

○地域づくりを推進する財源等の例

- ・ 事業の一体的な実施による各分野の補助金等の柔軟な活用、共同基金におけるテーマ型基金や市町村共同基金委員会の活用、クラウドファンディング、SIBふるさと納税、社会福祉法人の地域公益的取組、企業の社会貢献活動等

【2】「複合課題丸ごと」「世帯丸ごと」「とりあえず丸ごと」受け止める場 第106条の3 第1項第2号

○住民に身近な圏域での「丸ごと」受け止める場の整備にあたっての留意点

- ・ 担い手を定め、分かりやすい名称を付けるなどして、広く住民等に周知。

例1: 地域住民による相談窓口を設置し、社会福祉協議会のCSWが専門的観点からサポートする方法

例2: 地域包括支援センターのプラチカを拠点とした相談窓口を設置するとともに、民生委員等と協働していく方法

例3: 自治体等において各種の相談窓口を集約し、各専門職が地域担当として、チームで活動していく方法

例4: 診療所や病院のソーシャルワーカーなどが退院調整等だけでなく、地域の様々な相談を受け止めていく方法

- ・ 民生委員、保護司等の地域の関係者から、情報が入る体制を構築する。

【3】市町村における包括的な相談支援体制 第106条の3 第1項第3号

○市町村における包括的な相談支援体制の構築にあたっての留意点

- ・ 支援チームの編成は、本人の意思やニーズに応じて新たな支援者を巻き込む。
- ・ 支援チームによる個別事案の検討や、資源開発のための検討の場については、①地域ケア会議などの既存の場の機能拡充、②協働の中核を担う者が既存の場に出向く、③新設する等の対応が考えられる。
- ・ 生活困窮者支援の実践で培われた、働く場や参加の場を地域に見出していき、福祉の領域を超えた地域づくりを推進

各論2「地域福祉(支援)計画」

○各福祉分野に共通して取り組むべき事項の例

- ・ 福祉以外の様々な分野(まちおこし、産業、農林水産、土木、防犯・防災、社会教育、環境、交通、都市計画等)との連携に関する事項
- ・ 高齢、障害、子ども等の各福祉分野のうち、特に重点的に取り組む分野
- ・ 制度の狭間の問題への対応のあり方
- ・ 共生型サービスなどの分野横断的な福祉サービスの展開
- ・ 居住に課題を抱える者・世帯への横断的な支援のあり方
- ・ 市民後見人の養成や活動支援、判断能力に不安がある人への金銭管理、身元保証人など、権利擁護のあり方
- ・ 高齢者、障害者、児童に対する統一的な虐待への対応や、家庭内で虐待を行った介護者・養育者が抱えている課題にも着目した支援のあり方
- ・ 各福祉分野・福祉以外の分野の圏域の考え方・関係の整理
- ・ 地域づくりに資する複数の事業を一体的に実施していくための補助事業等を有効に活用した連携体制
- ・ 役所内の全庁的な体制整備

○計画策定に当たっての留意点

- ・ 狭義の地域福祉計画の担当部局のみならず、計画策定を通して、部局を超えた協働の仕組みができるような体制をとる。
- ・ 他の福祉に関する計画との調和を図る方法として、計画期間をそろえる、一体的に策定するなどの方法が考えられる。
- ・ 成年後見、住まい、自殺対策、再犯防止等の計画と一体的に策定することも考えられる。

各論3「自治体、国の役割」

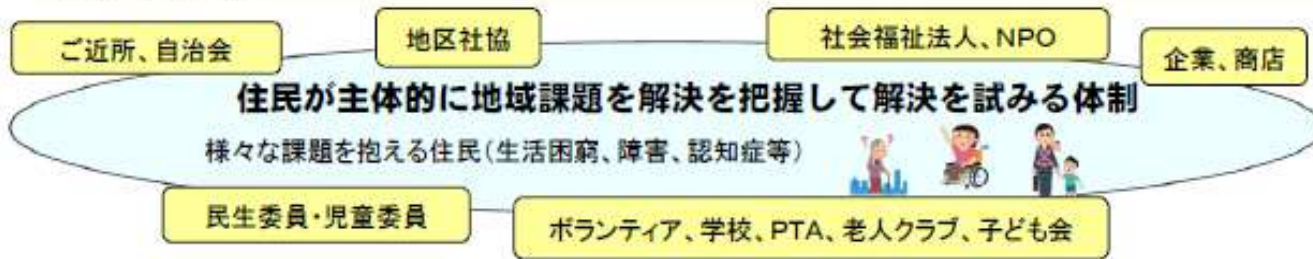
- 市町村→包括的な支援体制の整備について、責任をもって進めていく。地域福祉計画として関係者と合意し、計画的に推進していくことが有効。
- 都道府県→単独の市町村では解決が難しい課題への支援体制の構築、都道府県域の独自施策の企画・立案、市町村への技術的助言
- 国→指針等の作成で終わることなく、「我が事・丸ごと」の人材育成、プロセスを重視した評価指標の検討、財源の確保・あり方についての検討

「我が事・丸ごと」の地域づくりの強化に向けた取組の推進

平成29年度予算20億円
実施主体：市町村

(1) 地域力強化推進事業

住民の身近な圏域において、住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みることができる体制を構築することを支援するための事業。



地域における他分野
まちおこし、産業、
農林水産、土木、
防犯・防災、環境、
社会教育、交通、
都市計画

住民が主体的に地域課題を解決を把握して解決を試みる体制づくりを支援



[1] 他人事を「我が事」に変えていくような働きかけ



[2] 地域の課題を「丸ごと」受け止める場 (※)

※ 地区社協、市区町村社協の地区担当、地域包括支援センター、相談支援事業所、地域子育て支援拠点、利用者支援事業、社会福祉法人、NPO法人等

ニッポン一億総活躍プラン
(H28.6.2閣議決定)

小中学校区等の住民に身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりの支援。

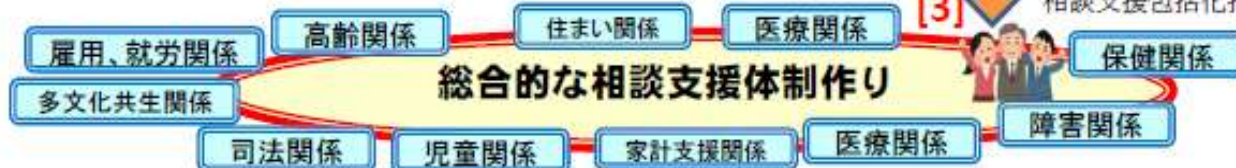
世帯全体の複合化・複雑化した課題を受け止める、市町村における総合的な相談支援体制作りの推進。

(2) 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

複合化・複雑化した課題に的確に対応するために、各制度ごとの相談支援機関を総合的にコーディネートするため、相談支援包括化推進員を配置し、チームとして包括的・総合的な相談体制を構築する事業。

相談支援包括化推進員

世帯全体の課題を的確に把握
多職種・多機関のネットワーク化の推進
相談支援包括化推進会議の開催等



新たな社会資源の創出
地域に不足する資源の検討

住民に身近な圏域

市町村域等

絆ネット事業とは

地域の高齢者、障害者、児童などの見守り・生活支援を進める上で、複数機関の連携による支援や公民協働での支援など、地域の様々な主体による取組を横断的に調整・推進し地域全体での新たな見守り活動を展開、地域福祉の再構築を目指す。

取組み内容

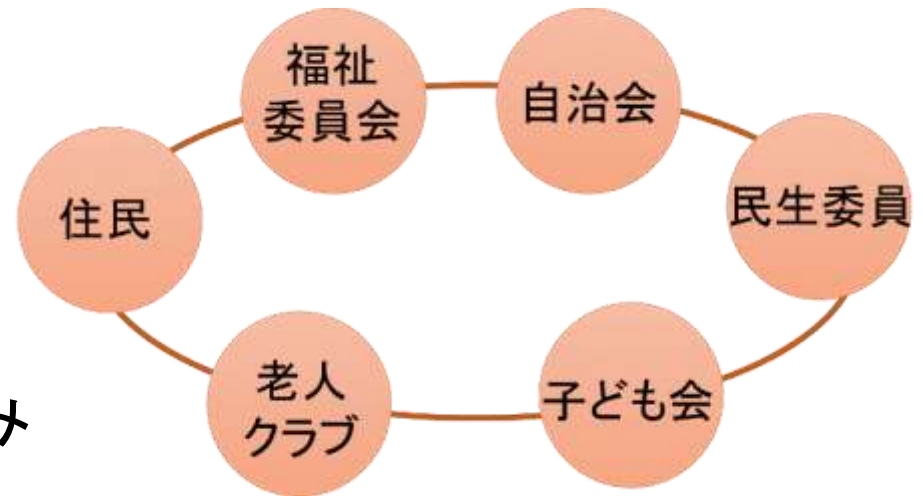
- 住民による見守り・支え合い活動の推進
- 男山あんしんネットワークの構築
- 絆ネット地域懇談会の開催

住民による見守り・支え合い活動の推進

地区座談会の開催

地域課題の共有と協議

課題解決に向けた取組み



男山B地区見守り隊

《取組み内容》

- ・事前登録の見守り訪問
- ・さりげない見守り
- ・下校時のパトロール
- ・緊急対応など



住民による見守り・支え合い活動の推進

ちょっとした悩み・困りごと



気軽にご相談ください

相談箱設置しています！

Eラウンジ入口横に相談箱を設置しています。相談内容を書いてポストに投函してください。記入用紙は相談箱に設置しています。後日、社会福祉協議会からご連絡させていただきます。



ミニサロンでもお伺いします！

Eラウンジ前のテントで、住民が集えるミニサロン「憩いの場」を開催しています。直接、お話しを伺います。

時間：10時～12時



男山八望地区福祉座談会

《取り組み内容》

- ・ご近所福祉相談所・ポスト設置
- ・地域の学び場づくり【認知症サポーター】(予定)
- ・多世代交流の場づくり【おもちゃ病院】(予定)

男山第4住宅福祉委員会

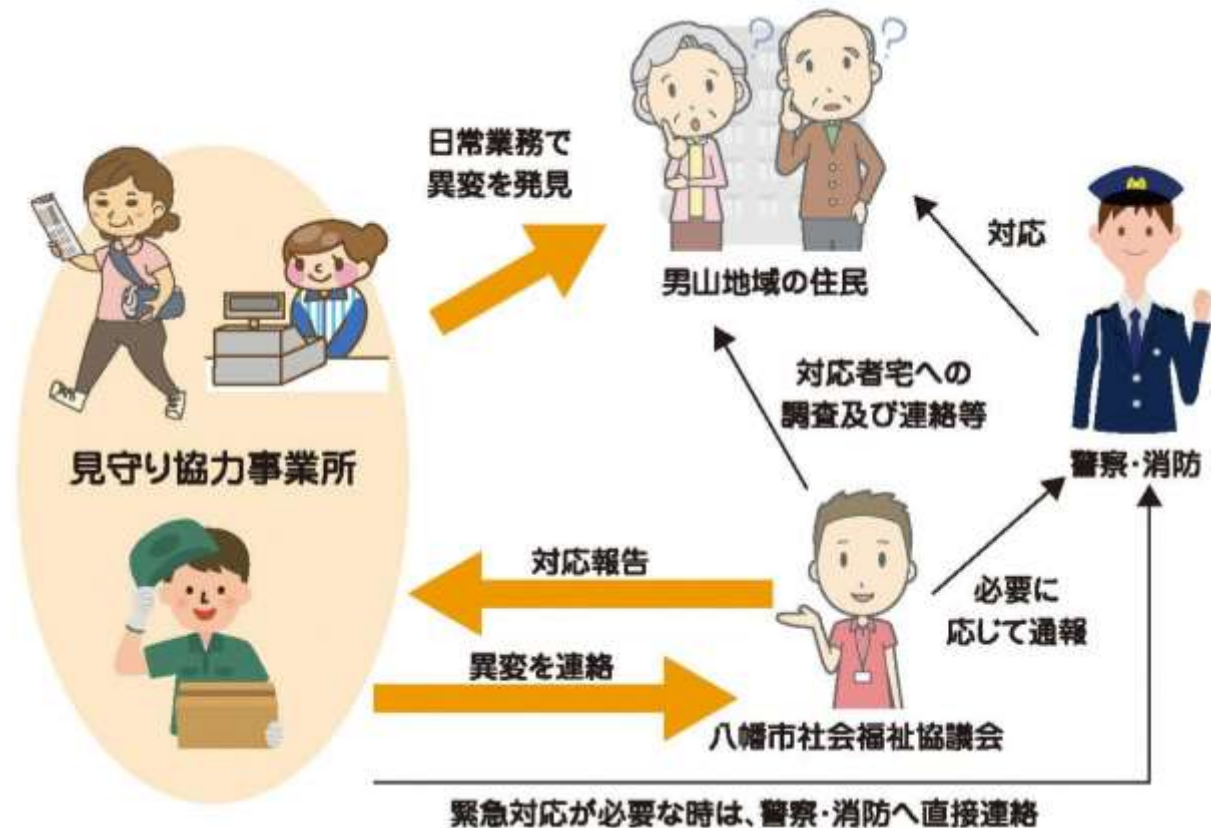
《取り組み内容》

- ・サロン活動
- ・認知症に関する研修
- ・要配慮者想定避難訓練(車イス支援)



男山あんしんネットワークの構築

男山地域に住む人々誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、住民だけでなく様々な事業所の皆さんと連携した見守り活動をすすめる。



絆ネット地域懇談会の開催

地域活動者と専門職等関係機関が一同に集まり、取組みや地域課題の共有を行い、各地域での活動活性化、課題解決に向けた様々な連携促進を図ることを目的に開催します。

《主な出席者》

- ・各地域活動者(自治会単位)
- ・地域包括支援センター
- ・生活情報センター
- ・まちの公共員
- ・八幡警察署
- ・UR都市機構
- ・八幡市
- ・社会福祉協議会



男山団地の 地域医療福祉拠点化

(2)多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で
住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立

地域医療福祉拠点化の取組み

拠点化の進め方に決まった形はありません。地方公共団体、自治会等の地域関係者と連携・協力しながら、地域の状況に応じて、様々な要素の中から必要なものを組み合わせて、住宅・施設・サービス等の整備を推進していきます。男山団地では、連携協定に基づき様々な整備が進められている中、ここでは、「エレベーター設置」と「健康寿命サポート住宅の整備」を紹介します。



地域医療福祉拠点化の取組み

1 中層エレベーターの設置

男山団地をはじめ、昭和40年代に建設した郊外団地には、5階建て・エレベーターなしの住棟が数多くあります。

地域医療福祉拠点化を進める団地における団地内共用部のバリアフリー改修について、国からの支援が拡充されたことを受け、今般、男山団地の一部の住棟において、エレベーター設置を計画しています。

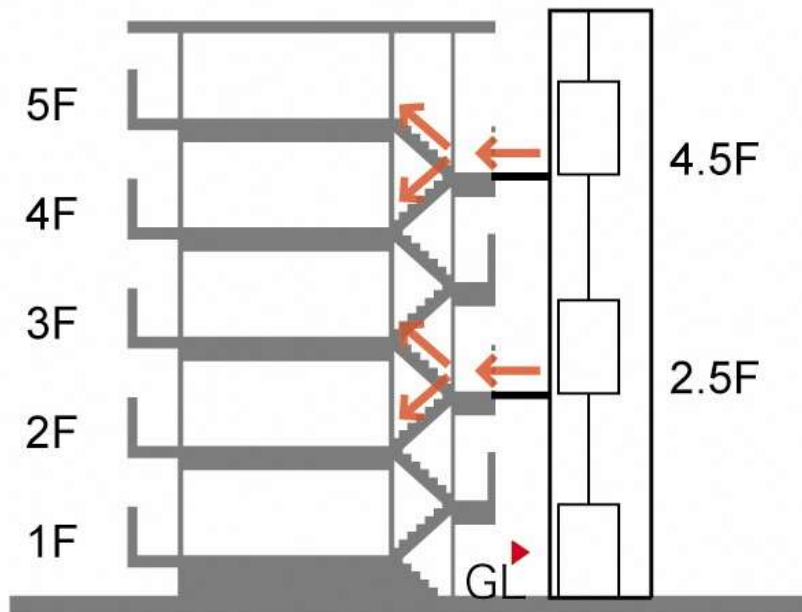


B42、B44、B45の3棟が対象

地域医療福祉拠点化の取組み

後付するエレベーターは、既存の階段室の外側に設置し、2～3階部分と4～5階部分の階段室の踊場の腰壁を撤去し、そこにエレベーターの出入り口を設置する計画です。これにより、お住まいの方への工事による影響をできるだけ減らすとともに、設置後は2～5階にお住まいの方は、半階分の昇降により外出することが可能となります。

階段とエレベータの関係



設置後のイメージ



地域医療福祉拠点化の取組み

2 健康寿命サポート住宅の供給

手すりや浴室暖房などを設置する等、高齢者の方の住戸内の安全・安心に配慮した「健康寿命サポート住宅」の募集を平成28年度から開始しました。



- ・ 人感センサー付照明
- ・ 手すりの設置 など



- ・ またぎ高さを低く設定
- ・ 浴室ヒーターの設置 など



- ・ 段差の軽減
- ・ 多機能便座への変更 など

まちの公共員

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、
地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

(4)住民が主役となるまちづくりとして、
地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

まちの公共員とは

●趣旨

特定の地域課題に対し地域に定着して多様な主体との協働関係をつくり、社会システムとしての解決策の創出と推進をマネジメント（半公半X）

※まちの仕事人...市町村の課題解決の取組を支援

●業務イメージ

- ・ワークショップの開催
 - ・目標、行動計画、グループづくりのための委員会の開催
 - ・地域の人材、資源等を組み合わせた協働事業の実施 等
- ※まちの仕事人...住民・市町村・府等の総合調整

●配置状況（現在3名）

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ・八幡市男山地域（だんだんテラスの会） | 平成26年11月～29年10月 |
| ・和東町（和東町地域力推進協議会） | 平成26年11月～29年3月 |
| ・亀岡市河原林町（河原林町自治会） | 平成27年 8月～ |
| ・福知山市大江町（大江まちづくり住民協議会） | 平成29年 9月～ |

●男山地域におけるこれまでの活動

- ・だんだんテラスの企画・運営
- ・男山やってみよう会議の主宰

1まち1キャンパス事業

学生たちが京都府全域をキャンパスとして活動できるよう『京都のまるごとキャンパス化』を目指し、支援事業を実施

＜支援事業内容(⑳～)＞

- ①大学・地域連携プロジェクト支援
- ②市町村学生受入施設整備支援

1まち1キャンパス事業による支援

●趣旨

多くの学生が大学のキャンパスを飛び出し、府内各地で地域をフィールドとした活動を経験し、学び、交流する中で成長できる取組みを進め、大学で学ぶことの魅力をさらに高めるとともに、**地域に愛着を持ち地域に貢献する人材を育てることを目指す。**

●⑳府内全体での取組み状況

16の大学・地域連携プログラム(13大学・14市町)を採択・支援

●関西大学×八幡市(男山地域)への支援

大学が活動地域に拠点を設置、人員を配置し、年間を通じた地域活性化の取組みを実施する**理想的なケース**として事業採択(㉘～)

＜支援内容＞

大学・学生の活動環境面をサポート

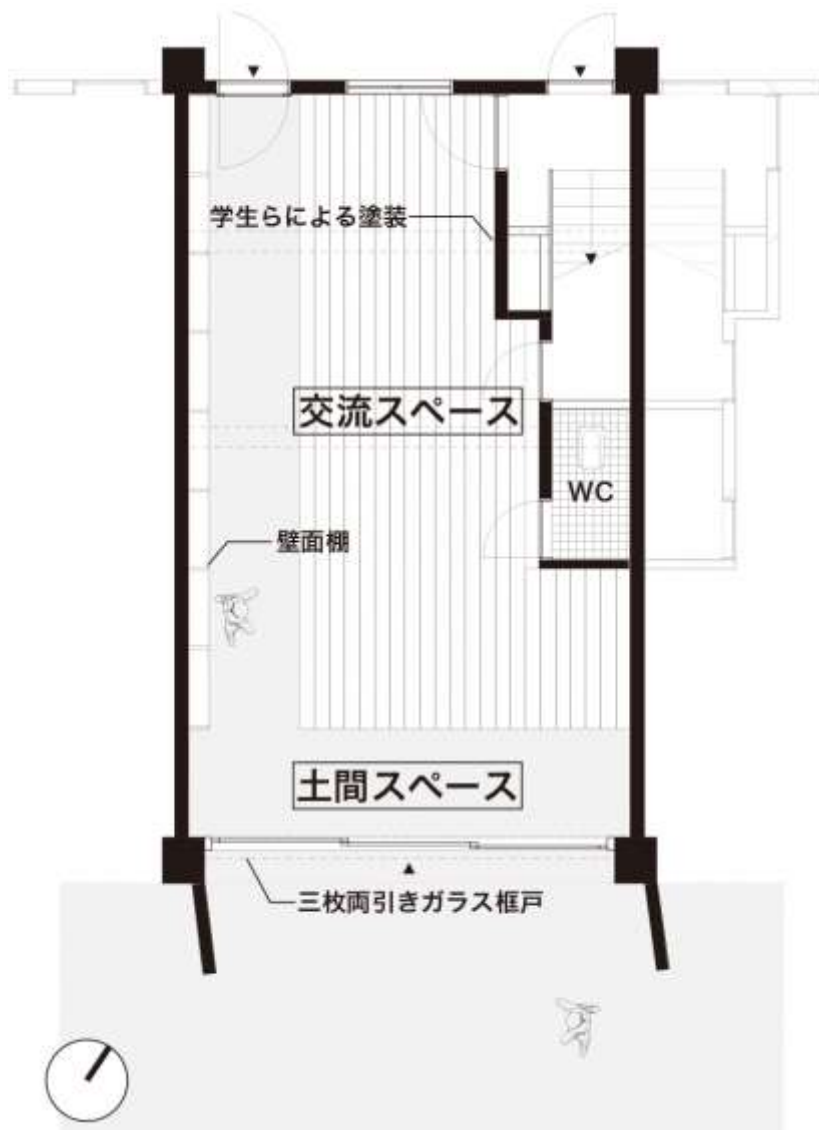
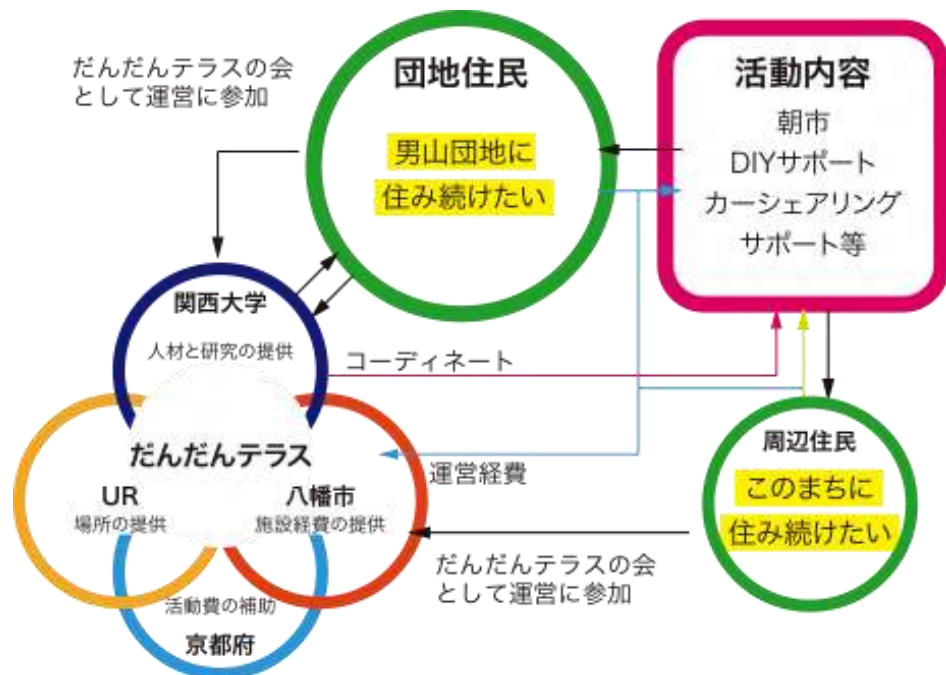
(地域コーディネート活動費用、学生・教員等の移動費用等を支援)

だんだんテラスの取組み

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、
地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

(4)住民が主役となるまちづくりとして、
地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

365日気軽に集まれるだんだんテラス



開設日：平成25年11月16日～

運営：だんだんテラスの会

主に大学院生が常駐

時間：年中無休(10時-18時)

住民と学生が協働で継続した運営をめざす

まちづくり運動体やってみよう会議の開催



男山やってみよう会議

○毎月第3土曜日開催

自発的・自立的に

男山地域のまちづくりに
関わりたい市民を公募。

○開催の狙い

日常の場(だんだんテラス)

非日常の場(やってみよう)

2つのプラットフォーム

で住民活動を支援する。

まちづくり運動体やってみよう会議の成果

チームが「自立」し独自に活動を展開している。



平成27年 公募メンバー38名

平成28年 10チームで活動

平成29年 協働事業を企画

各チームの個性を活かし、

単独の活動から協働事業を企画。

集会所改修や防災イベントの実施を

検討する部会を立ち上げた。



交流の場



だんだん朝市



朝10時からのラジオ体操



dang dang BAR



健康麻雀の会

情報共有の場



京都府建築士会による「住まいの相談会」



月曜日に開催する「お昼ごはんを食べる会」



八幡地域猫を考える会による「ねこ座談会」



防災に関する情報発信を行う「防災チーム」

活動の場



やってみよう会議チームによる会議利用



毎月8日に開催する手作り市&フリマ



毎月1回開催する子ども食堂



商店会主催の秋祭りでの協働

住民アンケートの実施

今後のだんだんテラスの運営や各種取組の方向性を検討していく上での参考とするために、男山地域住民へのアンケート調査を実施

調査方法 郵送配布・回収

調査時期 平成29年8月中旬～下旬

配布数 2,000(無作為抽出)

回収数 634(10/18現在)

回収率 31.7%

調査内容

- ・取組をどう思っているか、期待すること
- ・だんだんテラス等、取組の認知度及び必要性
- ・コミュニティ活動・まちづくり活動への参加意欲
- ・男山地域に住み続けたいか(住みやすさ)

年齢	男性	女性	不詳	合計
10・20代	29	43	1	73
30代	24	42	1	67
40代	31	71	3	105
50代	31	51	3	85
60代	52	61	7	120
70歳以上	85	88	10	183
不詳	0	0	1	1
合計	252	356	26	634

認知度	知っている なんとなく知っている	知らない 不詳
再生基本計画	59.5%	40.5%
まちづくり連携協定	50.2%	49.8%
だんだん通信	82.5%	17.5%

住戸タイプ	構成比
男山団地(賃貸・分譲)	54.4%
戸建住宅	35.6%
その他集合住宅	9.5%

※不詳除く

ココロミタウンの取組み

(UR男山団地C地区)

(3)地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、
地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立

(4)住民が主役となるまちづくりとして、
地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

ココロミタウンプロジェクトの取組み

必要な時期に自分で住まいに手を加えて、住み続けることのできるセルフリノベーション特区をUR男山団地内に新設(愛称:ココロミタウン)。

【ココロミタウンの特徴】

- ① 申請等により退去時の原状回復義務が免除される特典付の賃貸住宅を供給

⇒平成28年10月15日より特区化

- ② 気軽に取り組める改修サポート体制



住民の皆さんが、住まいながら、日常の暮らしを少し良くする試みを自ら実施することで、住まいに愛着を持って、長く住み続けたいまちとなることを目指します。

ココロミタウンにおけるサポート体制等

専門知識が無くても、改修に踏み出せるようサポート体制等を整備。

① 京都府建築士会による住まいの相談会



毎月2回、専門家が無料相談会を開催。改修のアドバイスやURへの申請に係るサポートを実施しています。

② だんだんテラスによるDIY工具貸出し



365日開設のだんだんテラスでDIY工具の貸し出しを行っています。道具が既にあるだけでハードルがぐっと下がります。

③ 共有の改修事例集(男山リノベカタログ)



ビフォー・アフターの写真をカタログにまとめ、だんだんテラスに設置しています。実際に改修事例が見学可能なモデルルームも3部屋あります。

④ 入居時の負担軽減特典など



DIY指定住宅は入居前に工事ができるよう3ヶ月のフリーレント付であったり、近居割が併用可能など、入居時の特典があります。

住まいの相談会（京都府建築士会との連携）

平成27年度より、毎月2回（第2・4土曜日）開催



男山団地、男山地域の住民を対象に、セルフリノベーション（自主改修）の支援を目的として実施。

相談会に来た中から実際にセルフリノベーションを行う方も。

28・29年度「男山秋祭り」では、DIYの楽しみを体験できるイベントを開催した。



だんだんテラスを拡張しラボ機能が充実



だんだんテラス横の空店舗を活用しラボを開設

セルフリノベーションの促進やものづくりコミュニティの醸成、
DIY(Do it yourself)の精神を軸にまちづくり活動の拠点を目指す。

男山地域安心・安全コミュニティ 創造プロジェクト

男山地域安心・安全コミュニティ 創造プロジェクトの目的

犯罪・非行防止、消費者被害の未然防止等、
地域の安心・安全対策に係る取組を実施し、

地域内での自治会やNPO等による地域活動を
活発にし、新しい形の地域創造を目指す。

男山地域安心・安全コミュニティ 創造プロジェクトの取組状況

■平成26年2～4月

関係者によるワークショップ形式で議論

■平成26年5月～

ワークショップ形式で意見をもとにそれぞれが
実施可能な施策を検討、事業計画を決定・実施

■平成27年4月～

前年度の取組をベースに、4つの部会を
設置し、連携した取組を実施

4部会の主な取組

■ 特殊詐欺部会

被害防止啓発活動、絆ネットと連携した高齢者の見守り活動等

■ 交通死亡事故部会

交通事故防止啓発活動

■ 万引き・自転車盗部会

自転車総合啓発活動

■ AEDによる応急処置部会

救命講習、自治会防災訓練でのAED訓練

男山地域安心・安全コミュニティ 創造プロジェクトの課題

- 京都府等行政主導から住民主体の取組への段階的な転換が必要
- 男山地区の安心・安全に係る類似の取組(※)との整理が必要

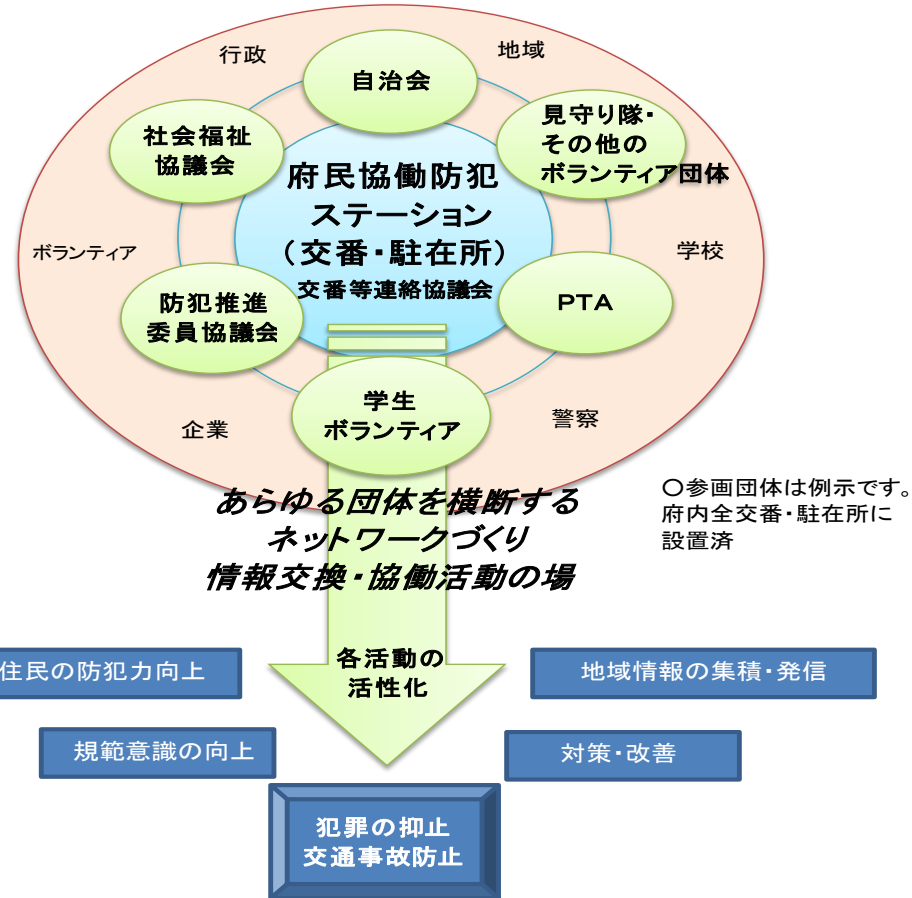
※「男山あんしん・あんぜんステーション」(府民協働防犯ステーション)
「絆ネットワーク地域懇談会」

「府民協働防犯ステーション」の取組

・交番・駐在所等を核として、地域の安心・安全に関わる様々な団体がネットワークを形成

・地域の団体が、警察や行政と連携して、防犯、交通安全等地域の安心・安全について具体的な活動を検討し課題解決に取り組む

・自主的な活動を継続的に行うようリーダー兼事務局長的な役割を担うステーション・コーディネーターを育成・配置



男山地域安心・安全コミュニティ 創造プロジェクトの今後の展開方向

- 趣旨が重なっているため、地域の関係団体、警察、行政が連携して取り組んでいる「男山あんしん・あんぜんステーション」へ統合
- プロジェクトで取り組んできた特殊詐欺対策として、絆ネットと連携した高齢者の見守り活動等については、「男山あんしん・あんぜんステーション」と「絆ネットワーク地域懇談会」との連携強化等
- 「男山あんしん・あんぜんステーション」の取組については、これまで関与が薄かった八幡市が積極的に関与していく。（今後府内のモデルとなるよう取り組む）
- 他の関係者は、取組について各々の立場で支援を継続

男山地域の情報発信

■ だんだんテラス facebook おひさまテラス facebook

■ 八幡市役所

<http://www.city.yawata.kyoto.jp/category/1-23-0-0-0.html>

■ UR男山団地(特設サイト)

http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama_danchi/

■ UR男山団地(住宅情報)

https://www.ur-net.go.jp/chintai/kansai/kyoto/80_1840.html

■ 関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト(KSDP内サイト)

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/index.html>

■ 京都府府民力推進課

http://www.pref.kyoto.jp/chiikiriyoku/koukyouin_yawata.html